

第3回委員会で抽出された北本市における市民参画の問題点の集約

- (1) 計画段階での情報公開等、共通理解を築くための早い段階での市民参画の手順が不足している。
- (2) 市民が市政に関する情報を積極的に得るため、又は行政が特定の問題について関心の高い市民を見つけるために、市民登録制度が必要である。
- (3) 前向きにおそれずに市民参画を進める、行政・議会側の意識が不足している。
- (4) 批判に傾倒するだけでなく、行政・議会と一緒に市政改革に取り組むという市民側の意識が不足している。
- (5) 行政や議会に任せきりにするのではなく、市民も自分たちで考え、討議し、共にまちづくりに参加しなければならない。
- (6) 目先の結果だけでなく将来の予測データを踏まえた政策設計が必要である。そのための行政・議会・市民の意識が不足している。
- (7) 市民が具体的に建設的な政策提案を行うための市民政策提案制度の整備が必要である。
- (8) 各種市民団体との連携や、事前の呼びかけが不足している。
- (9) 市民の意見を的確に反映するため、市民参画制度を改善する必要がある。
- (10) 情報共有という自治基本条例の精神（原則）を行政・議会・市民がよく理解して行動すべき。